

小学校外国語科モデルプラン

第 5 学年

She can run fast. He can jump high.

先生たちのすごいところを紹介しよう

We Can! 1 Unit 5



関連する領域別の学習到達目標

【聞くこと】	ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取ることができる。
【話すこと】 【やり取り】	自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができる。
【話すこと】 【発表】	日常生活に関する身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができる。



単元ゴール

コミュニケーションの 目的・場面・状況	友達や ALT の先生に、校内の先生の意外な特技など、できることを紹介するために、先生にインタビューした情報を基に、「先生のできること紹介」を行い、紹介カードを書く。
目指す発話例	<p>【先生へのインタビュー（やり取り）】</p> <p>S: Do you like sports? T: No, I don't. S: Well, do you like music? T: Yes, I do. S: What music do you like? T: I like classical music. S: Oh, good. Can you play the piano? T: Yes, I can. S: Can you play the violin? T: No, I can't. But I can play the flute. S: You can play the flute? Great!</p> <p>【先生のすごいところ紹介（発表）】</p> <p>This is Ms. Hiroshima Reiwa. She can play the piano. She can play the flute. She is gentle.</p>



言語材料（下線は新出表現・語彙）

主な表現	主な語彙
<u>Can you (sing well)?</u> — Yes, I can. / No, I can't. <u>[I / You / He / She] [can / can't] (sing well)</u> Do you like (soccer)? — Yes, I do. / No, I don't. What (sport) do you like? — I [like / don't like] (soccer) very much.	動作(play [the recorder / the piano], ride a [bicycle / unicycle], swim, skate, ski, cook, dance, run fast, jump high, sing well), can, can't, he, she, Mr., Ms. スポーツ, 日課

指導計画

第1時	<p>目標：動作を表す語や、できるかどうか尋ねたり答えたりする表現が分かる。 文字には音があることに気付く。</p> <p>準備物：デジタル教材、児童用テキスト、絵カード、振り返りカード</p>
-----	---

時間	児童の活動 【 】 = We Can! に誌面化されている活動	指導者の活動と使用英語例 ◎評価<方法>	準備物
1分	・挨拶をする。	・指導者や日直と児童全体、児童のペアで挨拶や様子を尋ねるやり取りを交わす。	
3分 	<p>[Jingle] Animals Jingle</p> <p>・音声に合わせてジングルを言う。</p>	<p>・アルファベットの文字がもつ音の特徴を捉えやすいように、指導者も口をはっきりと動かし、一緒にジングルを言う。</p> <p>◎文字と音の関係に気付いている。<行動観察></p>	デジタル教材
8分 	<p>○Small Talk : ●●先生のできること・できないこと</p> <p>・指導者の Can you ~? を用いた対話を聞いて、できるかどうかについて話していることに気付く。</p> <p>・この単元で取り組む課題を知り、単元の見通しをもつ。</p> <p>・本時のめあてを立てる。</p>	<p>T1: (児童に向かって) I have a Japanese toy. (隠して) What's this? SS: Kendama! T1: Yes. It's a kendama. (T2 に) Can you play kendama? T2: Umm... No, I can't. T1: Oh, really? Let's try! T2: OK. (できたら) Yes, I can! (できなかつたら) No. I can't play kendama. T1: (児童に向かって) How about you? Can you play kendama? SS: Yes! / No!</p>	
	<p>できるかどうかをたずねたり答えたりしよう。</p>		
7分	<p>○先生の質問に答えよう</p> <p>・再度指導者のやり取りを聞き、どのような表現が聞こえてきたかを言う。</p> <p>・できるかどうかを尋ねたり答えたりする表現を知り、指導者の質問に答える。</p>	<p>T1: Let's ask what ●●sensei can. What do you ask? ・Can you ~? を用いてのやり取りをゆつくりと言い、表現に気付かせる。</p>	絵カード
7分	<p>[Let's Play 2] いろいろな動作を表す言葉を言ってみよう。(p.37)</p> <p>・デジタル教材(又は絵カード)を見て、英語でのいろいろな動作の言い方(play / play the)を知る。</p>	<p>・本時は誌面2段目のplayを使うスポーツ、3段目のplay theを使う楽器演奏に絞り、楽器の場合はtheが付くことや、スポーツ名や楽器名を入れ替えればいろいろな質問ができることに気付かせる。</p>	絵カード 児童用テキスト
15分 	<p>○Let's Talk : 友達にできるかどうか尋ねてみよう。</p> <p>・できるかどうかを尋ねる言い方を確認し、ペアの友達に質問したいことを五つ選び、できるかできないかを予想して○、△を記入する。</p> <p>・ペアで質問をし合う。</p> <p>A: Can you play the guitar? B: Yes, I can. A: Oh, really? Nice!</p>	<p>・答えを予想して友達に尋ねることで、目的意識をもって活動させる。</p> <p>・答えを聞く際には、Nice!など、反応を示しながら聞くように促す。</p> <p>・机間指導を行い、やり取りがうまくできていないペアのそばで一緒に言うなどして支援を行う。</p> <p>◎動作を表す語や、できるかどうか尋ねたり答えたりする表現を聞いたり言ったりしている。<行動観察></p>	絵カード 児童用テキスト
4分	<p>・本時の学習の振り返りを振り返りカードに記入し、全体で交流する。</p> <p>・挨拶をする。</p>	<p>・内容面と言語面から振り返らせ、本時のねらいに照らして児童を評価する。</p> <p>・挨拶をする。</p>	振り返りカード

第2時	<p>目標：いろいろな動作を表す語を用いて、できるかどうかを尋ねたり答えたりすることができる。 文字には音があることに気付く。</p> <p>準備物：デジタル教材、児童用テキスト、絵カード、ワークシート、振り返りカード</p>
-----	---

時間	児童の活動 【 】 = We Can! に誌面化されている活動	指導者の活動と使用英語例 ◎評価<方法>	準備物
1分	・挨拶をする。	・指導者や日直と児童全体、児童のペアで挨拶や様子を尋ねるやり取りを交わす。	
3分	【Sounds and Letters】 m (p.36-37) ・デジタル教材で m の音を確認する。 ・誌面の m で始まる単語を発音したり、他に見付けた語を言ったりする。	・アルファベットの読み方には名称の他に音があることや、誌面の単語以外の m で始まる語も同じ音であることに気付かせる。	デジタル教材
3分 	○聞こえたアルファベットの小文字を書こう。(Unit 5-7①~⑤) ・指導者の言うアルファベットとその音を聞き、ワークシートに書く。	・5文字のアルファベットの名称と音を言って聞かせ、ジングルのイラストをヒントに選んで書かせる。 ◎文字と音の関係に気付いている。<WS>	ワークシート
5分 	○Small Talk : できるかどうかをたずね合う (T-T→T-S→S-S) ・前時で学習した Can you ~? と動作を表す表現を用いて、できるかどうかをペアで尋ね合う。 ・めあてを立てる。	T1: Can you play the piano? T2: Yes, I can. How about you? Can you play the piano? T1: No, I can't. But I can play the guitar. ●●san, can you play the guitar? S1: No, I can't. (語を変えて数名の児童とやり取りする) T1: Let's talk in pairs. SS: Can you ~?	
友達に、いろいろなことについてできるかどうかを尋ねてみよう。			
4分	【Let's Play 2】 いろいろな動作を表す言葉を使ってみよう。(p.37) ・デジタル教材(又は絵カード)を見て、色々な動作の言い方を知り、練習する。	・play を用いた表現を復習した後で、play 以外にも様々な動詞を使うと質問の幅が広がることに気付かせる。	デジタル教材 絵カード
3分 	【Let's Chant】 Can you sing well? (p.35) ・デジタル教材の音声を聞き、何が聞こえたかを確認した上で、質問と答えのパートに分かれてチャンツを言う。	・ゆっくりバージョンで聞かせ、質問と答えの表現を確認させる。 ・指導者は児童が言いにくそうなパートと一緒に言う。	デジタル教材
10分 	【Activity 1】 ペアの友達に尋ねたいことを五つ選び、できるかできないかを予想してインタビューしよう。(p.37) ・ペアの友達に質問したいことを五つ選び、できるかできないかを予想して○、△を記入する。 ・ペアで質問をし合う。	・答えを予想して友達に尋ねることで、目的意識をもって活動させる。 ・答えを聞く際には、Nice! など、反応を示しながら聞くよう促す。 ・活動後に机間指導で見つけた児童のよい姿を紹介することで、次の全体でのインタビュー活動の質を高めるようにする。	児童用テキスト
12分 	【Activity 2】 クラスの友だちにインタビューをしてサインをもらおう。(p.37) ・教室内を歩いて回って友達にインタビューし、イラストの下にサインをもらう。 ・インタビューで分かった友達の意外な面などを交流する。 A: Can you swim well? B: Yes, I can. A: Oh, really? Nice!	・指導者がモデルを示し、No で答える際も、But I can ~ と続けるよう促す。 ・机間指導を行い、うまく言えていない児童を支援する。 ◎いろいろな動作を表す語を用いて、できるかどうかを尋ねたり答えたりしている。<行動観察、誌面>	児童用テキスト
4分	・本時の学習の振り返りを振り返りカードに記入し、全体で交流する。 ・挨拶をする。	・内容面と言語面から振り返らせ、本時のねらいに照らして児童を評価する。 ・挨拶をする。	振り返りカード

第3時	<p>目 標：自分ができることやできないことを、友達と伝え合うことができる。 文字には音があることに気付く。</p> <p>準備物：デジタル教材、児童用テキスト、絵カード、ワークシート、振り返りカード</p>
-----	--

時間	児童の活動 【 】 = We Can! に誌面化されている活動	指導者の活動と使用英語例 ◎評価<方法>	準備物
1分	・挨拶をする。	・指導者や日直と児童全体、児童のペアで挨拶や様子を尋ねるやり取りを交わす。	
3分	<p>【Sounds and Letters】 n (p.38-39)</p> <p>・デジタル教材でnの音を確認する。</p> <p>・誌面のnで始まる単語を発音したり、他に見付けた語を言ったりする。</p>	・アルファベットの読み方には名称の他に音があることや、誌面の単語以外のnで始まる語も同じ音であることに気付かせる。	デジタル教材
3分 	<p>○聞こえたアルファベットの小文字を書こう。(Unit 5-7⑥~⑩)</p> <p>・指導者の言うアルファベットとその音を聞き、ワークシートに書く。</p>	<p>・5文字のアルファベットの名称と音を言って聞かせ、ジングルのイラストをヒントに選んで書かせる。</p> <p>◎文字と音の関係に気付いている。<WS></p>	ワークシート
2分 	<p>【Let's Chant】 Can you sing well? (p.35)</p> <p>・質問と答えのパートに分かれてチャンツを言う。</p>	・指導者は児童が言いにくそうなパートと一緒に言う。	デジタル教材
5分 	<p>○Small Talk：できるかどうかをたずね合う (T-T→T-S→S-S)</p> <p>・Can you ~?を用いて、できるかどうかをペアで尋ね合う。</p> <p>・めあてを立てる。</p>	<p>T1: Can you swim well? T2: No, I can't. How about you? Can you swim well? T1: Yes, I can. ●●san, can you swim well? S1: No, I can't. But I can run fast. (語を変えて数名の児童とやり取りする) T1: Let's talk in pairs. SS: Can you ~?</p>	
10分 	<p>【Let's Watch and Think 2】 (p.38)</p> <p>・映像を見て、誌面の登場人物 (John と Christina) ができるとに○、できないことに△をつける。</p> <p>・再度映像教材を見ながら答えを確認し、指導者と一緒に言う。</p>	<p>・動画を視聴する前に、誌面の絵を見ながら答えを予想し、I can / can't ~.を用いて言ってみてから聞かせるとよい。</p> <p>・最初は会話を一通り聞き、2回目は児童の様子に応じて区切って聞かせるなど、聞かせ方を工夫する。</p>	デジタル教材 児童用テキスト
12分 	<p>○できるとできないことを伝え合おう。</p> <p>・絵カードを見ながら、表現を練習する。</p> <p>・出てきていない表現で、自分が伝えたいことを英語でどうするか知る。</p> <p>・グループでI can/can't ~.を用いて、できること、できないことを伝え合う。</p> <p>A: I can swim well. B: Oh, nice! A: But I can't ride a unicycle. How about you? B: Me neither!</p>	<p>・初めに指導者が反応しながら伝え合うモデルを見せる。</p> <p>・自分の得意なことを伝えたい、相手のことを知りたいという意欲をもたせて、活動に入る。</p> <p>・机間指導を行い、交流がうまくできていない児童のそばで一緒に言うなどして支援を行う。</p> <p>◎自分ができるとできないことを、I can / can't ~.を用いて伝え合っている。<行動観察、誌面></p>	絵カード
5分 	<p>○Let's Read and Write</p> <p>・モデル文を見ながら、自分のできること、できないことを、語句を選んで書く。</p>	・机間指導を行い、表現を選択できない児童やうまく書き写すことのできていない児童を支援する。	ワークシート
4分	<p>・本時の学習の振り返りを振り返りカードに記入し、全体で交流する。</p> <p>・挨拶をする。</p>	<p>・内容面と言語面から振り返らせ、本時のねらいに照らして児童を評価する。</p> <p>・挨拶をする。</p>	振り返りカード

できるとできないことを伝え合おう。

第4時	<p>目標：第三者についてできることやできないことを伝える表現が分かる。 文字には音があることに気付く。</p> <p>準備物：デジタル教材、児童用テキスト、絵カード、ワークシート、振り返りカード</p>
-----	--

時間	児童の活動 【 】 = We Can! に誌面化されている活動	指導者の活動と使用英語例 ◎評価<方法>	準備物
1分	・挨拶をする。	・指導者や日直と児童全体、児童のペアで挨拶や様子を尋ねるやり取りを交わす。	
3分	【Sounds and Letters】 o (p.40-41) ・デジタル教材でoの音を確認する。 ・誌面のoで始まる単語を発音したり、他に見付けた語を言ったりする。	・アルファベットの読み方には名称の他に音があることや、誌面の単語以外のoで始まる語も同じ音であることに気付かせる。	デジタル教材
3分 	○聞こえたアルファベットの小文字を書こう。(Unit 5-7⑩~⑫) ・指導者の言うアルファベットとその音を聞き、ワークシートに書く。	・5文字のアルファベットの名称と音を言って聞かせ、ジングルのイラストをヒントに選んで書かせる。 ◎文字と音の関係に気付いている。<WS>	ワークシート
2分 	【Let's Chant】 Can you sing well? (p.35) ・質問と答えのパートに分かれてチャンツを言う。	・指導者は児童が言いにくそうなパートと一緒に言う。	デジタル教材
5分 	○Small Talk : ペアでできることを伝え合う (T-T→T-S→S-S) ・I can / can't ~.を用いて、できることをペアで伝え合う。 ・めあてを立てる。	T1: I can play soccer well. T2: Oh, I know! How about you? What can you do? T1: I can play the flute. T2: Good! T1: ●●san, what can you do? S1: I can ~. (数名の児童とやり取りする) T1: Let's talk in pairs. SS: I can ~.	
人のできることやできないことを言ってみよう。			
10分 	【Let's Watch and Think 2】 (p.38) ・John と Christina の会話を聞いていた Satoshi が、二人を紹介するのを視聴し、どんな語句等が聞こえたかを発表する。 ・分かったことを誌面に記入する。 ・答えを確認する。	・前時に聞いた内容を思い出させ、He / She に変えて言っていることに気付かせる。 ・児童の実態に応じて、繰り返し聞かせたり、指導者がゆっくり言って聞かせたりする。	デジタル教材 児童用テキスト 絵カード
5分	○写真の人物のできることを言ってみよう。 ・人物カード (または ICT 教材) で出てくる人物ができることを、He / She can ~.を用いて言う。	・スポーツ選手や芸術家など、児童の知っている人物を提示し、いろいろな表現を言わせる。 ・言いにくい表現があれば、ゆっくり繰り返し言って聞かせる。	絵カード
12分 	○自分の好きな有名人や身近な人物のできることを言ってみよう。 ・指導者のモデルを見て、やり取りの仕方を知る。 ・自分の伝えたい人のできることを、ペアで伝え合う。 ・ペアを変えて繰り返し伝え合う。 A: I like Mr. Kikuchi Ryosuke. He can play baseball very well. B: I know! He is great!	・初めに指導者がモデルを見せる。 ・自分の好きな人物のことを伝えたい、相手の好きな人物について知りたいという意欲をもたせて、活動に入る。 ・机間指導を行い、交流がうまくできていない児童のそばで一緒に言うなどして支援を行う。 ◎第三者について、できることやできないことを伝える表現を聞いたり言ったりしている。<行動観察>	
4分	・本時の学習の振り返りを振り返りカードに記入し、全体で交流する。 ・挨拶をする。	・内容面と言語面から振り返らせ、本時のねらいに照らして児童を評価する。 ・挨拶をする。	振り返りカード





第5時	<p>目 標：既習表現を用いたやり取りで得た情報を元に、第三者についてできることを伝え合うことができる。 文字には音があることに気付く。</p> <p>準備物：デジタル教材、児童用テキスト、絵カード、ワークシート、振り返りカード</p>
-----	--

時間	児童の活動 【 】 = We Can! に誌面化されている活動	指導者の活動と使用英語例 ◎評価<方法>	準備物
1分	・挨拶をする。	・指導者や日直と児童全体、児童のペアで挨拶や様子を尋ねるやり取りを交わす。	
3分 	【Jingle】 Animals Jingle ・音声に合わせてジングルを言う。	・アルファベットの文字がもつ音の特徴を捉えやすいように、指導者も口をはっきりと動かし、一緒にジングルを言う。	デジタル教材
3分	○ ワードサーチ (Unit 5-8) ・表の中のアルファベットから生き物のつづりを見付ける。	・生き物名の最初の文字の音をヒントとして与えながら、語を探させる。 ◎ 文字と音の関係に気付いている。<WS>	ワークシート
5分 	○ Small Talk : 先生(T2)の意外な特技 ・T1 が T2 にインタビューするのを見て、一緒に質問しながら先生の特技を聞き出す。 ・めあてを立てる。	T1: Do you like music? T2: Yes, I do. T1: Can you play the piano? T2: No, I can't. T1: 他に何を聞いてみる? S1: ギター? SS: Can you play the guitar? T2: Yes, I can! T1: Wow! Cool!	
友達にインタビューして、意外な特技を紹介しよう。			
5分	○ Let's Talk① : 先生の特技を聞きだそう ・先生(T2)の特技を知るために、どんな質問をすればいいかを考える。 ・学級全体で先生にインタビューする。 ・He / She can ~.の表現を用いて、全員で先生の特技を紹介する。	T1: Let's ask what ●●sensei can. What do you ask? ・好きなことのジャンルを聞いてから、Can you ~?の質問に繋げる例を挙げる。 ・前時に学んだ He / She の使い分け方を、絵カードを提示して思い出させる。	絵カード
12分 	○ Let's Talk② : 友達の特技を聞きだそう ・グループ(4人)でインタビューのやり取りを行う。 ・どんなやり取りを行ったか交流する。 ・グループでさらにやり取りを行う。 ・インタビューで分かった友達のできることのうち、紹介したいものをワークシートに記入する。	・机間指導を行い、反応しながら聞いたり、さらに詳しく聞いたりするなどの声掛けを行い、児童に良いやり取りを意識させる。 ・How about you?や What ●● do you ~?などの、話を続けたり深めたりする表現を使っている児童を見つけて他の児童に紹介し、次のやり取りで活用するよう促す。	ワークシート
12分 	○ Let's Talk③ : 友達の特技を紹介しよう ・インタビューで分かった友達のできることをどう紹介するか考え、誰が誰を紹介するか決めてグループで言ってみる。 ・他のグループの友達に、グループの友達のできることを紹介する。 A: He can play the guitar. B: Oh, really? Nice!	・先生の特技紹介(Let's Talk①)を再度行い、He / She を用いた紹介のモデルを見せる。 ・机間指導を行い、He / She や動詞の活用の仕方や、相手意識をもった話し方などに気付かせる。 ・グループを変えながら繰り返し発表させることで、発話の量を確保する。 ◎ やり取りで得た情報を元に、友達のできることを伝えている。<行動観察、発表>	絵カード ワークシート
4分	・本時の学習の振り返りを振り返りカードに記入し、全体で交流する。 ・挨拶をする。	・内容面と言語面から振り返らせ、本時のねらいに照らして児童を評価する。 ・挨拶をする。	振り返りカード


第6時	<p>目 標 : 先生についてできることなどの情報を得るために, どのような既習表現を用いたやり取りを行うかを考え, インタビューの準備をすることができる。</p> <p>文字には音があることに気付く。</p> <p>準備物 : デジタル教材, 児童用テキスト, 絵カード, ワークシート, 振り返りカード</p>
-----	---

時間	児童の活動 【 】 = We Can ! に誌面化されている活動	指導者の活動と使用英語例 ◎評価<方法>	準備物
1分	・挨拶をする。	・指導者や日直と児童全体, 児童のペアで挨拶や様子を尋ねるやり取りを交わす。	
3分 	[Jingle] Animals Jingle ・音声に合わせてジングルを言う。	・アルファベットの文字がもつ音の特徴を捉えやすいように, 指導者も口をはっきりと動かし, 一緒にジングルを言う。	デジタル教材
3分 	○単語を聞いて, 最初の音のアルファベットの小文字を書こう。(Unit 5-9)	・ジングルで言った文字の音を思い出させ, ワークシートに記入させる。 ◎文字と音の関係に気付いている。<WS>	ワークシート
5分 	○Small Talk : 友達や好きな有名人のできること (T-T→T-S→S-S) ・He / She can ~.を用いて, 友達や有名人のできることについて, ペアで伝え合う。 ・めあてを立てる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">先生インタビューの準備をしよう。</div>	T1: I like Osaka Naomi. She can play tennis. T2: I know! I like Kikuchi Ryosuke. He can play baseball very well. T1: Yes. I like Carp. T2: ●●san, who do you like? (数名の児童とやり取りする) T1: Let's talk in pairs.	
5分	○インタビューする先生のできることを予想しよう。 ・インタビューを担当する先生を決める。(事前に決めて確認する。) ・先生ができることを予想して, 動詞カードから選ぶ。	T1: Let's ask what ●●sensei can. What do you ask? ・好きなことのジャンルを聞いてから, Can you ~?の質問に繋げる例を挙げる。 ・前時に学んだ He / She の使い分け方を, 絵カードを提示して思い出させる。	絵カード
12分	○インタビュー内容を決め、『先生インタビューカード』を作ろう。 ・質問したい内容を動詞カードから選ぶ。 ・インタビューカードに先生の名前を記入し, 選んだカードを貼る。	・児童の実態に応じて, インタビューに行く先生を相談やくじ引きで決めさせる。 ・巻末絵カードから質問する内容を選んで, インタビューカードに貼らせる。 ・名前の前に男性なら Mr., 女性なら Ms. を付けることを知らせる。	ワークシート
12分 	○インタビューの練習をしよう。 ・指導者のモデルを聞き, どのようにインタビューするかを確認する。 ・全員でやり取りの例を練習する。 ・ペアでインタビューの練習をする。 Excuse me, ●●sensei. May I ask some questions? Do you like music? Can you sing well? Can you cook? What can you do? Thank you very much.	・今後活用していくことを視野に入れ, Excuse me. May I ask some questions? を導入する。 ・机間指導を行い, 難しさを感じているペアを支援する。 ◎先生についてできることなどの情報を得るために, どのような既習表現を用いたやり取りを行うかを考え, インタビューの準備をしている。 <行動観察, インタビューメモ>	絵カード ワークシート
4分	・本時の学習の振り返りを振り返りカードに記入し, 全体で交流する。 ・挨拶をする。	・内容面と言語面から振り返らせ, 本時のねらいに照らして児童を評価する。 ・挨拶をする。	振り返りカード

第7時	<p>目 標：先生についてできることを、話したことを基に、語順や文字の高さを意識しながら、語句を書き写したり、絵カードを選んで貼ったりする。</p> <p>準備物：デジタル教材、児童用テキスト、絵カード、ワークシート、振り返りカード</p>
-----	--

時間	児童の活動 【 】 = We Can! に誌面化されている活動	指導者の活動と使用英語例 ◎評価<方法>	準備物
1分	・挨拶をする。	・指導者や日直と児童全体、児童のペアで挨拶や様子を尋ねるやり取りを交わす。	
3分 	<p>[Jingle] Animals Jingle</p> <p>・音声に合わせてジングルを言う。</p>	・アルファベットの文字がもつ音の特徴を捉えやすいように、指導者も口をはっきりと動かし、一緒にジングルを言う。	デジタル教材
5分	<p>○Teacher's Talk : 先生の紹介カード (児童がインタビューしていない先生)</p> <p>・指導者の先生紹介を聞く。</p> <p>・めあてを立てる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">『先生紹介カード』を作ろう。</div>	<p>・先生紹介カードを、写真と名前部分を隠して見せながらクイズを出し、先生の紹介をする。</p> <p>・単元末の発表(クイズ)のモデルとなるよう意識する。</p> <p>T: She can sing well. She can cook well. And she can speak English. But she can't ride a unicycle. Who is she?</p> <p>S: ●●sensei!</p> <p>T: That's right.</p>	ワークシート
5分 	<p>[Activity 4] 先生にインタビューして分かったことを□に書こう。(p.39)</p> <p>・インタビューした先生を紹介する際に、He / Sheのどちらを使うかを確認する。</p> <p>・先生インタビューで分かったことをワークシートに記入する(または絵カードを選んで貼る)。</p>	<p>・例を提示して、先生から得た情報を、He / She を使って表現することに気付かせる。</p> <p>・未習の表現を使いたい児童には、必要に応じてヒントを与えたり、和英辞典を活用させたりする。</p>	絵カード ワークシート
15分 	<p>○『先生紹介カード』を作ろう。</p> <p>・インタビューメモを見ながら、得た情報を紹介カードに下書きする。</p> <p>・指導者に確認してもらい、清書する。</p>	<p>・紹介カードのモデルを掲示し、前の活動で誌面に記入した内容を、順序を考えて書き写せばよいことを伝える。</p> <p>・机間指導を行い、表現が適切か、四線上に丁寧に書き写すことができているかなどを見取る。</p> <p>◎先生のできることを語順や文字の高さを意識しながら、語句を書き写したり、絵カードを選んで貼ったりしている。<行動観察、ワークシート></p>	ワークシート
12分 	<p>○紹介の練習をしよう。</p> <p>・指導者のモデルを見る。</p> <p>・ペアで役割分担をして、クイズや発表の練習を行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>(クイズ) She can (run fast). She can (play the piano). She can (cook well). But she can't (play kendama). Who is she?</p> <p>(紹介) This is (Mr. Tanaka). She can (run fast). She can (play the piano). She can (cook well). But she can't (play kendama).</p> </div>	<p>・最初に行った発表モデルを再度見せ、意識するポイントに気付かせる。</p> <p>・グループ内のペアで対面して練習させ、発表の質を高めさせる。</p>	ワークシート
4分	<p>・本時の学習の振り返りを振り返りカードに記入し、全体で交流する。</p> <p>・挨拶をする。</p>	<p>・内容面と言語面から振り返らせ、本時のねらいに照らして児童を評価する。</p> <p>・挨拶をする。</p>	振り返りカード

第8時	<p>目 標：他者に配慮しながら、先生についてできることを紹介し合おうとする。 先生についてできることを、考えや気持ちも含めて伝え合う。</p> <p>準備物：デジタル教材、児童用テキスト、絵カード、ワークシート、振り返りカード</p>
-----	--

時間	児童の活動 【 】=We Can! に誌面化されている活動	指導者の活動と使用英語例 ◎評価<方法>	準備物
1分	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導者や日直と児童全体、児童のペアで挨拶や様子を尋ねるやり取りを交わす。 	
5分	<p>○Teacher's Talk : 先生紹介のモデル (児童がインタビューしていない先生)</p> <ul style="list-style-type: none"> 指導者が行う発表 (クイズ) のモデルを見る。 めあてを立てる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>先生のことを紹介しよう。(先生"Who is he/she?" クイズ大会をしよう。)</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 本時の発表 (クイズ) のモデルとなるよう意識する。 学級の実態や規模に応じて、クイズ・紹介またはその両方など、発表の方法を工夫する。 	ワークシート
30分 	<p>○先生のことを紹介しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 発表 (クイズ) する際の話し方や視線など、相手意識をもった発表のポイント、聞き手の態度や反応の仕方を交流し、確認する。 ジェスチャーをしたり、話すスピードを意識したりするなどの工夫をしながら、先生紹介 (クイズ) を行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>(クイズ) She can (run fast). She can (play the piano). She can (cook well). But she can't (play kendama). Who is she? (紹介) This is (Mr. Tanaka). She can (run fast). She can (play the piano). She can (cook well). But she can't (play kendama).</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 聞き手も反応しながら聞かせるなど、話しやすい雰囲気づくりを意識させる。 活動の途中で中間評価をし、良いスピーチについて、具体的に児童と共通理解し、後半のスピーチを行う。 ◎相手に伝わりやすいように工夫しながら、先生についてできることを紹介しようとしている。 ◎先生についてできることを、考えや気持ちも含めて伝えている。<行動観察、発表> 	絵カード
5分	<p>【STORY TIME】Kazu と Maria の算数についての対話</p> <ul style="list-style-type: none"> デジタル教材で絵本の読み聞かせ (Kazu と Maria の算数についてのやり取り) を聞く。 誌面の文字を指で追って聞く。 一緒にせりふを言う。 	<ul style="list-style-type: none"> デジタル教材で文に引かれるアンダーラインを追いながら聞くことで、文字を読むことに慣れさせる。 机間指導を行い、うまく言えていない児童を支援する。 	デジタル教材 児童用テキスト
4分	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習の振り返りを振り返りカードに記入し、全体で交流する。 挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 内容面と言語面から振り返らせ、本時のねらいに照らして児童を評価する。 挨拶をする。 	振り返りカード